

山田家住宅保存活用協議会

代表者	田中三郎兵衛
所在地	〒590-0503 大阪府泉南市新家 3148
設立年月日	2004年04月25日
URL	http://www.rinku.zaq.ne.jp/bkadb707/yamada

【設立趣旨】

山田家住宅は、泉南市を貫通する熊野街道（紀州街道でもある）沿いに近い場所にあり、江戸時代の17世紀後半から代々庄屋を務めていた豪農屋敷でした。庄屋制度が廃止された後も歴史的景観が残り、建築遺構の保存状態が良いことから、国民的財産として認定され平成14年に登録有形文化財になりました。敷地面積2800m²に配置された建物群は、当時の生活を彷彿とさせる江戸末期に建てられた優れたもので、表門、長屋門、米蔵、主屋棟、玄関棟、台所棟、土蔵、土塀の8件が登録されています。この泉南市が誇る貴重な景観、歴史遺産を公開することでみんなが伝統文化を再発見し、各種交流の中で屋敷を活用し、後世に伝承していきたいと考えている。



山田家長屋門

【沿革】

平成14年3月：文化庁の登録有形文化財として登録される
平成15年11月：保存協議会の第1回設立準備会を開催、設立趣意書、会則を審議
平成16年4月：山田家住宅保存活用協議会の第1回総会を開催、正式に発足以来、毎月第4日曜日を一般公開日にして、案内人が屋敷を案内している。協議会の会員は、16の団体会員と115名の個人会員で構成された（現在は18団体会員に増加）平成16年12月：浄化槽と来訪者用のトイレ設備一式の寄贈があり贈呈式を挙げる
平成17年4月：民俗資料1号館を開設、農機具、生活調度品を展示。2号館、3号館も年内に順次開設
平成17年10月：来訪者用「山田家住宅」説明チラシを改定、多色刷りチラシを発行、配布を開始
平成18年9月：「協議会通信」（A4サイズ4頁建て）第1号を発行、以降、季刊（年4回）発行を継続中
平成21年1月：大阪府の大阪ミュージアム登録物に認定され、登録証が届く
平成21年2月：催し物会場でもある主屋棟の土間に照明器具装置一式を新設、快適な空間が完成した

【活動目的】

旧村の中に立地する豪農屋敷は、細く曲がりくねった道の中にあり知る人ぞ知る存在だった。反面、昔の暮らしや趣を感じる地元の生活があり、この希有の村落と庄屋屋敷を歴史遺産として伝統文化を継承する心を養うための活動を目指している。ただ、果たすべき方向性は手探り状態ではあるが、次のような活動を続けている。

- ①豪農屋敷の存在を地域住民に認知してもらうため、来訪を促すイベントを毎月定期的に公開日に実施する
- ②市民の理解と協力を得るために、歴史遺産価値について啓発と交流を行う（文化サロンや各種講演会）
- ③児童や学生との交流を恒例化し、古民家特有の生活の知恵や民俗文化を再発見するプログラムを実施する
- ④古民家保存のネットワークなどを有効に活用し、屋敷の維持管理などの財政上の方策を考える
- ⑤屋敷内のあらゆる設備を有効活用し、体験学習や創造力を高めるイベントを導入する。



061024 キルト展

【活動内容】

1. 毎月の第4日曜日は屋敷内外の一般公開日で、案内人が屋敷のガイドをしています。同時にイベントも開催しているので、屋敷見学者とイベント来訪者が集まり賑わいます。イベントを例示すると、絵画・切り絵・キルト・書道など作品の展示発表会、ハワイアン・マンドリン・ハーモニカ・オカリナ・琴などの演奏会、童謡やヴォーカルのコンサート、日本舞踊、お芝居、民話語り、紙芝居などで、ジャンルを問わず申し込みがあります。



061029 藁草履体験



061029 野点

2. 学童と学びあう機会も多々あります。近隣のいくつかの小学校が学童を引率して来訪し、「昔の暮らし」を勉強するのが恒例になりました。また、古民家を学ぶかたわら、それ題材にした写生会を企画して引率してくる学校もあります。資料館に展示している農機具を実際に使用する麦扱き体験、藁を使って縄を織い、わら草履を作るイベントなども世話しながら、世代間を超えた相互交流を楽しんでいます。

3. 文化講演会の会場にもなっています。主屋の土間は100名程度の聴衆には程良い広さです。泉南市文化協会の文化サロンでは、今年も古文書に見る代々の庄屋を語る講演会です。泉南市の熊野街道を闊歩する歴史文化ウォッチングでは、ここの庄屋屋敷が立ち寄りスポットですし、熊野街道フォーラムの会場にもなりました。



080303 雛飾り



090429 コンサート

4. 「サツマイモ掘り体験」で始まった大阪観光大学学生との交流は、今では5月の苗の植え付けが加わり、10月にはイモ掘り体験、イモ蒸かし体験、蒸かしイモ談義が行われる恒例行事になりました。薪を使って竈で羽燵の湯を沸かし、蒸籠（せいろ）で蒸かす体験ができ、話題は尽きません。古民家宿泊体験もありました。

5. 山田家には茶室がありますので、茶室を使ったイベントもあります。茶華道連盟の企画で茶道を学んだ児童のお茶席、初釜会などの行事では、来訪者と楽しく礼節を学びます。山田家住宅の開放日は日曜以外も多くあり、ここ3年間の平均で年43日、来訪者は3500人を超えています。清閑だった山田家住宅は、今では認知度はかなり高くなりました。明るく楽しい笑い声が飛び交う庄屋屋敷、江戸時代には想像できなかった賑わいの広場、そんな学び舎の空間になることを期待しています。

【活動上の課題と今後の展望】

1. イベント予約希望が多くうれしい悲鳴になっているが、イベントなくても来訪者が来る仕掛けが必要です。
2. 建物は老朽化しており、補修したい箇所はいくつもあるが、保存会に予算がないので所有者の負担になってしまうのは心苦しい。会費や協力金をお願いしても、集まる金額のケタが違うのが課題です。
3. 所有者の好意で、屋敷を利用した催しを企画しているが、心身の負担が所有者に降りかかっている。
4. 所有者の個人宅なので防犯上も常時、三々五々に集まってサロン風研究会を開くには限度がある。